



I 研究紹介（天島華織協力研究員）

2019年6月に極東地域研究センターに協力研究員として着任しました天島華織と申します。極東地域研究センターが、人間文化研究機構のネットワーク型基幹研究プロジェクトの一環として2016年から実施している「北東アジアにおける地域構造の変造：越境から考察する共生への道」に携わる研究員として日々の研究活動に取り組んでいます。

私の専門は環境経済学であり、特に気候変動と経済活動の関係に着目した実証研究を行っています。自然災害・異常気象が生産や貿易といった様々な社会的・経済的活動にどのように影響を及ぼすのかを明らかにし、自然災害の被害軽減や気候変動適応策のための取り組みについて経済学の視点から検討を行っています。

自然災害というと、国内では昨年夏の西日本豪雨により多くの地域が洪水や土砂災害などに見舞われ、甚大な被害を受けました。また海外では、2005年アメリカのハリケーン・カトリーナ、2011年タイの大洪水、同年東アフリカの大規模干ばつのほか、ヨーロッパでは今年も熱波により死者が出るなど、世界的にも自然災害は頻発化、激化する傾向にあります。自然災害の被害と聞くと、主に農作物への被害が想定されるかもしれませんが、影響が及ぶのは農業分野だけに留まりません。自然災害や異常気象は、工業活動、生産性、人々の健康、子どもの死亡率のほか、社会的安定性、移民・難民、紛争といった様々な社会経済的側面に影響を与えることが、経済学を含めた多くの研究により知られています。こういったなか、私自身の最近の研究では貿易と災害の関係に着目しています。この研究からは、輸出国側で災害が起こった場合にも輸入国側で災害が起こった場合にも国家間の貿易に損失が生じることなどがわかっており、貿易という経路を通じた自然災害の影響を明らかにしています。

今後の極東地域研究センターでの研究プロジェクトにおいては、北東アジア地域の国際分業の進化と資源の持続可能な利用に関して、貿易データを活用した研究が進められます。そのため、これまでの自身の研究の経験を十分に活かし、プロジェクトの研究に尽力していきたいと考えています。さらに、当センターでは、北東アジアという地域を対象に文理の垣根を超えた様々な課題に取り組むための研究が行われています。このような学際的で大変恵まれた環境のなか、分野を超えて活躍される先生方から刺激を受けながら研究者として発展し、プロジェクトの研究に貢献していきたいと思っております。

（文責：天島華織）

II 欧文図書出版のための国際交流

今年6月20日、極東地域研究センターは人間文化研究機構のプロジェクトの一環として、社会科学分野で有数の大手出版社である Palgrave Macmillan の主任編集者 Jacob Dreyer 氏をお招きし、富山大学経済学部棟7階中会議室で、国際セミナー”How to publish a book in English”を開催しました。

Jacob Dreyer 氏は、米国のご出身で、ご専攻は政治経済学であるため、アジアや極東地域に関する社会科学の図書出版を担当しています。私の彼との出会いは、2018年私の単著欧文図書“Economic Transition and Labor Market Reform in China”（2018）の出版企画を Palgrave Macmillan に提出したことがきっかけです。審査を受けて出版契約を締結した後、彼は編集主担当者となりました。約1年間彼のチームは素晴らしい編集作業を行い、頻繁に交流するに従い、友達となりました。それは、私にとって図書を出版できたこと以上の望外の喜びとなりました。



写真1. セミナー（FD研修会）にて

今回の講演では、Jacob Dreyer 氏は、Palgrave Macmillan の出版ポリシー、出版内容、出版された学術図書について丁寧に説明して頂きました。講演によると、良く知られた Spring Nature 出版社は、Springer、Nature Publishing Group や Palgrave Macmillan などの複数会社から構成されたグループ会社であり、毎年世界で約12000部欧文図書および多数学術雑誌を出版し、Palgrave Macmillan は年間約60部図書を出版します。出版の後、世界中の図書館・大学図書館に積極的な宣伝・推薦活動を行うそうので、研究者にとって良い学術アフターサービスです。

今回の国際セミナーはFD研修会を兼ねていたため、大学院生など若手研究者たちの他にも、経済学部、理学部、医学部、教養教育院などの教員も参加いただきました。講演の後、活発なディスカッションを行い、どのようなテーマの図書出版が審査を通り易いか、どのように出版申請書を書けばいいか、

などの参加者たちからの具体的な質問を受け、Jacob Dreyer 氏は真摯に回答されていました。非常に有意義なFD研修会となって、とても喜んでます。

(文責：馬欣欣)

III Workshop IBEO - Institution Individual Behavior and Economic Outcome 2019 参加記

6月18日から21日までイタリアのSasari大学で開催されたワークショップに参加、報告しました。同ワークショップでは(1)信用市場と金融市場の不完全性、(2)政治経済学、(3)デジタル経済学、(4)経済成長と経済発展の4つのセッションから構成されていました。私は、20日と21日に開催されました経済成長と経済発展のセッションに参加報告いたしました。同セッションは、10の一般報告と1つの招待講演から構成されていました。一般報告は報告時間が30分、討論時間が10分、招待講演は報告時間が1時間でした。同ワークショップに参加して良いと思われた特徴は、(1) (私を除く?)報告者の質が高いこと、(2) 報告者の人数が多くないこと、(3) Sardegna 島が風光明媚で雰囲気がとても良いことやごはんがおいしいこと、(4) コーヒータイムや昼食や懇親会の時間が多く取られていて参加者同士がざっくばらんに研究内容に関して意見交換をしやすきことなどが挙げられるように思われました。

私は、関税の自由化が経済成長率や厚生に与える影響に関する研究を報告しましたが、重要なコメントを頂き、コメントに基づき論文を改訂中です。また、報告者の1人のDuke大学のPietro Peretto先生から2人のお弟子さん(Robert Kane先生とChien-Yu Huang先生)が新潟の国際大学で働いていることや、9月から10月にかけて日本に滞在されることを伺いました。現在、Robert Kane先生とWorkshopを日本で開催できないか検討中です。

最後に、和田センター長、山本副センター長、センターの先生方にWorkshop参加費用の補助を頂きました。とても充実した経験を出来ましたことを心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(文責：福田勝文)

IV ノルウェー北極大学からゲスト招聘

富山大学では提携校との交流促進のための資金が準備されています。極東地域研究センターは経済学部と協力して、2019年に7月に全学提携校であるノルウェーのトロムソにある「ノルウェー北極大学(以下、UiTと略)」の経済学部から、Eirik Eriksen Heen先生を招聘しました。Heen先生は、実験経済学や産業組織論、環境資源経済学を専門としています。今回は、富山が新鮮な魚で有名なこと、そして、ノルウェーが世界で最も成功した漁業セクターをもつ国として知られていることから、ノルウェー漁業について分析した論文を報告していただきました。論文の中身は省略しますが、ノルウェーの漁業者は物価高で有名なノルウェーの中でもかなりの高額所

得者であること、また、漁業資源保全の観点から度々捕鯨が行われているという2つの話が印象的でした。

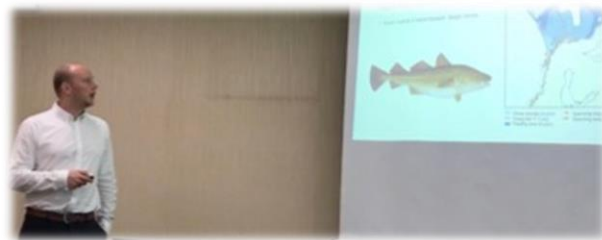


写真2 Heen先生のプレゼン

私が今回のHeen先生の滞在で最も良かったと感じている点は、UiTに留学を希望している学生が先生と交流することができた点です。Heen先生は大変気さくな方であり、「北極圏最大の都市」という未知の世界であるトロムソでの生活やノルウェーの食べ物などについて、何時間も相談にのってくださいました。この場をかりてあらためてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

(文責：山本雅資)

V 研究プロジェクトが最高のS評価

極東地域研究センターでは、平成28年度より、人間文化研究機構のネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「北東アジア地域研究」に参加し、6つある拠点校の一つとして北東アジア研究を推進してきました。この度、本取組みに対する中間報告書が公表され、総合評価で最高位のS評価を頂きました。総合所見として評価された点は、1) 成果物が多く出版され社会への情報発信が十分になされていること、2) 拠点間の連携や共同作業が進んでいること、3) 海外の教育研究機関との連携が多く行われていること、等です。これを我々センターに当てはめてみますと、1) プロジェクト2年目に当たる平成30年3月に、環境科学的視点も組み込み文理融合の成果を含めた書籍「東アジアにおける森林・木材資源の持続的利用：経済学からのアプローチ」(馬駿・今村弘子・立花敏 編著：農林統計協会)を刊行、2) 北海道大学や東北大学の拠点校と共同で開催した北東アジア学会連携シンポジウム「北東アジアの鳴動」の開催(平成31年1月)、3) Northeast Asia Academic Network (NAAN) 第16回会議の開催やロシアでの野外調査等があげられます。中間報告書に先立って公表された第一次評価報告書において、当センターは、学会発表の件数が多いだけでなく国際シンポジウム等の件数も多いこと、理学系や経済学系の論文がインパクトファクターの極めて高い雑誌に掲載されていること、国際貿易等のデータセットが構築されると同時に統計解析プログラムが開発され公開されていること、自治体(富山県)と連携した取組がなされていること等が特に評価されました。今後も当センターでは少人数ながら教職員一丸となって研究プロジェクトを推進して行きますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(文責：和田直也)